

# 2020 MIZUNO CHAMPIONSHIP U-16 ROOKIE LEAGUE



【予選Bブロック】12月19日

東北学院 2(1-0,1-1)1 東山

得点者

東北学院：2分 小松 光、40分 渡邊 幸汰

東山：70分+1 真田 蓮司



【予選Bブロック】12月19日

東北学院 0(0-0,0-1)1 富山第一

得点者

富山第一：50分 浅井 泰之



【予選Bブロック】12月20日

瀬戸内 1(1-0,0-1)1 東北学院

得点者

瀬戸内：35分 澤田 佳憲

東北学院：49分 渡邊 幸汰



【予選Bブロック星取表】

	東山	東北学院	瀬戸内	富山第一	順位
東山		1-2 ×	1-0 ○	2-0 ○	1
東北学院	2-1 ○		1-1 △	0-1 ×	2
瀬戸内	0-1 ×	1-1 △		2-1 ○	2
富山第一	0-2 ×	1-0 ○	1-2 ×		4

【交流試合】12月20日 東北学院 1-1 大津

【交流試合】12月21日 東北学院 3-2 米子北



## 御礼

時下、皆様におかれましてはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

この度は、ルーキーリーグ全国大会（ミズノチャンピオンシップU16）の出場に際し、多大なご厚志を賜り、誠にありがとうございました。

新型コロナウイルス拡大の状況を踏まえ、無観客試合となり、保護者でも現地での応援はできませんでしたが、オンライン配信により多くの皆様に応援をいただいたことと存じます。

大会においては、1勝1敗1引き分けでリーグ同率2位となり、惜しくも予選敗退となりましたが、初戦において、関西リーグ1位で予選負けなしであった東山高校（京都府）に勝利するなど、健闘を見せてくださいました。

全国レベルの相手との試合を通して、自分達が通用するところや足りないところなどを直接肌で感じることができ、勉強になったことが多かったのではないかと思います。

この貴重な経験を活かし、個人、チーム全体として一段と成長し、今後のインターハイや全国高校サッカー選手権における全国大会出場に繋げて欲しいと思います。

今後とも引き続き、東北学院中学校・高等学校サッカーチームへの変わらぬご支援を、よろしくお願いします。

令和3年1月

東北学院中学校・高等学校サッカーチーム保護者会  
幹事長 大友 啓司

## 大会を終えて

この度の「2020年度 ミズノチャンピオンシップU-16 ルーキーリーグ大会」出場に際しまして、コロナ渦の状況にも関わらず、多くの皆様方から温かいご芳志を賜り誠に有難うございました。皆様方からのご支援に対しまして厚く御礼申し上げます。

全国大会では、現在、高校1年生の指導をお願いしている壱岐洋治コーチの指導の下、全国大会出場常連のチームにも一歩も怯むことなく戦うことができました。

今大会は、4チームによる予選リーグ戦3試合を2日間で行い、各ブロックの1位校のみ順位決定戦に進むことができます（2位以下は交流戦）。大切な初戦で関西1位の京都東山高校に見事勝利しました。開始1分でPKによる得点、FKによる追加点を得て、相手チームに押されながらも1失点で切り抜け、見事勝利することで、最高のスタートを切ることができました。2戦目は1試合目が終わってから2戦目までの間が90分しかないこと、疲労が回復しない状況であること等、メンバー選考について頭を悩ますところですが、壱岐先生は1戦目のメンバーを中心に戦い、疲労困憊の中、生徒たちはチーム一丸となって戦い、チャンスもありましたが、0対1で惜敗。初日が終わった時点で全チームが1勝1敗、得失点差も並んだことで、全チームに1位のチャンスがあり、高いモチベーションのまま2日目を迎えるました。3戦目の瀬戸内高校戦は、隣接する会場で行われた東山-富山第一戦の試合状況も関係するため、壱岐先生は生徒と連絡をとる形をとりながら指揮をとっていました。試合途中で東山が2-0となったところで、2点差をつけないと1位になれない状況となり、瀬戸内戦は1-1のまま引き分けで終わり2位という結果となりました。

今回対戦したチームは全て全国でもトップクラスのチームでした。京都東山高校は現在、元京都サンガのジャイルコーチが指導に加わり強化しており、セレッソ大阪ジュニアユース7人、ガンバ大阪ジュニアユース4人が在籍していました。富山第一高校は全国高校サッカー選手権大会でも優勝経験があり、プレミアリーグ（全国リーグ）に参戦したことのある強豪校ですし、瀬戸内高校は、こちらではあまり聞いたことがないと思いますが、プレミアリーグ（全国リーグ）の参入戦にも出場したことのある中国プリンスリーグに参戦している強豪校です。

結果は昨年を上回る予選リーグ2位という結果で終えることができました。1日目終了した時点では1位のチャンスも残っており、予選リーグの3戦すべて気の抜けない、拮抗した試合を経験できること等、生徒たちは、大きな自信を得て、成長したことと 思います。

私は今大会、チームサポートという立場で、壱岐先生のご指導を間近で見ることができたことを嬉しく思いましたし、大変勉強になりました。壱岐先生の指導は、一人一人が生きる力を育む人間力を高める『人間力サッカー』ではないかと思います。球際では、バチバチと音がするくらいの迫力があり、一戦一戦『魂』が込もったサッカーを展開しておりました。全国の強豪校と戦っても、引けを取らない試合ができました。

昨年度全国大会に出場した高校2年生を含んだ新チームで、『人間力サッカー』に更に磨きを掛け、近々開催される東北新人大会、そして、高校総体や高校選手権大会での『優勝』を目指して生徒と共に一層努力していきたいと思います。

最後になりますが、大会や活動に際しましては、OB会、保護者の方々、関わって 頂いたすべての方々には日頃より温かいご支援、ご協力を賜り誠に感謝申し上げます。皆様方の益々のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

令和3年1月

東北学院高等学校サッカー部 監督 橋本 俊一

## ルーキーリーグ全国大会を終えて

令和二年は新型コロナウィルスに翻弄された大変な一年でした。しかも学院サッカーチームにあって、高1部員としては初めての59人という多大な大会でのスタートでもありました。また、インターハイの中止決定等により、東北ルーキーリーグの開催も危ぶまれる状況でしたが、関係各位の熱意により例年より試合数を減じて開催されました。改めて関係各位に感謝申し上げます。東北大会では内容の悪いゲームが数試合あったものの、試合毎にチームは成熟しながら何とか全国大会の出場権を昨年に引き続き得る事が出来ました。本大会では先ず予選リーグの一位しか与えられない決勝トーナメント進出を目指し奮闘しましたが、残念ながら1勝1敗1分（対東山2-1、対富山1-0-1、対瀬戸内1-1）の同率2位で終了しました。しかしながらこの大会は予選リーグ2位以下のチームに交流試合（対大津1-1、対米子北3-2）を組んでくれ、それによって参加者全員の出場機会を与える事が出来ました。全体的にチームとして良くまとまり、その上約束事項をしっかりと遂行し、一戦一戦全力を尽くし良く戦ってくれました。いずれにしても大変貴重な経験を高1の段階で積む事が出来ました。最終日、決勝戦（静岡学園3-1藤枝東）の前半のみ観戦し帰途につきましたが改めて高校サッカー界トップレベルとの差を痛感致しました。そのレベル差を今後の練習で如何に埋めていくことが重要であることを認識致しました。

その差とは？

- 1 精神面及びフィジカルの更なる強化（強いメンタリティー、逞しさ）
  - 2 基本技術の正確性（プレッシャーの中で）
  - 3 戰術的能力の向上（広い視野と判断力、そしてその速さ）
  - 4 攻守においての1対1の更なる強化
- 以上4点が特に痛感した次第です。

また、将来に繋がる高いレベルの選手になるためには、①技術、②体力（スタミナ、スピード、パワー、アジャリティー、体幹）③戦術（状況判断）④精神力（負けず嫌い）⑤チームワーク（自己中心にならず、協調性と責任感）を良く考え、今後、指示待ちの姿勢を捨て、眞の自立（自律も）した選手になることが肝要と考えております。

いずれにしても、高1の段階では、しっかりと「個の伸長」を重視しながら、その上全体のチーム力を更に向上させ、最終的にはインターハイ、選手権大会に向けて日々努力を重ねてくことが大事と感じます。

最後に、この大会参加にあたり温かいご支援、ご協力を頂いた学校関係者、OB会、そして保護者会の皆様に衷心から御礼と感謝を申し上げます。

令和3年1月

東北学院高等学校サッカーチーム 壱岐 洋治

## ルーキーリーグ全国大会を終えて

この度は、新型コロナウィルスで大変な中、予定通り全国大会を開催していただき、心から感謝いたします。

私たちは、全国ベスト4を目標に、この大会に参加しました。結果は予選リーグ2位となり、目標には届かず、非常に悔しい結果となりました。しかし、全国のトップレベルを体感できたことは、とてもいい経験になりました。

この大会で、自分たちが全国で通用する部分、通用しない部分がはっきりわかったと思います。この貴重な経験を生かして、インターハイ、選手権で全国に行けるように頑張りたいと思います。

令和3年1月

東北学院高等学校サッカーチーム  
高校1年生 桑原 優治朗